

KUWVの仲間は生涯の友

13期 大島 良治

私達13期は毎年同期会を開催し、幹事は持ち回りとなっています。早いもので、もう20回との事で、見た目通りすべての13期の仲間は“おじいさん”、“おばあさん”に分類されております。でも、年に一度集まったときには40数年まえに瞬間移動となり、楽しい時間を送っております。

今年の2月野沢のスキー合宿に、周辺散策グループに参加させていただき、記憶にある先輩の方々、見も知らない大先輩にお会いし、何回も40数年前に瞬間移動をさせてもらい、本当に楽しい時間でありました。来年も周辺散策者として参加させてください。



(野沢温泉街歩き 熊の手洗湯)

KUWVに所属していたというだけで、瞬時に打ち解けるこの魔力は何なのでしょう。「先輩であれば後輩の面倒を見なきゃいかん、後輩であれば先輩は頼りがいがある」この純真な心こそがKUWVの自慢できる財産であるように思います。

5月13、14日と犀川上流の小屋作業に行っていました。スキー合宿参加の面々も数人おいでしましたが、5名の現役連中を含め総勢20名弱のグループでした。現役連中は2年生との事でしたが、BHに来るのは初めてで当日このBHに泊まれるものと思っていたのが、予定通り高三郎新道にて野営となったのが本当に残念そうでした。BHでは昼食をともにし、先輩方の若き頃の活発な活動を現役に熱く語り、そして先輩方の偉

大さを声高らかに吹聴してもらいました。現役連中も、BHと多くの先輩方の歴史に感動し、これから何回もBHに来ようと思うでしょう？

しかし残念ながら、現在のKUWV現役部員達にとっては、わたくしたちの大切なBHは大した存在ではないようです。残念至極雨あられです。でも金沢に住むOBが一人でも生きている限り、BHは守っていかねばと息巻いています。ご安心ください。

私にとっては、KUWVの仲間は生涯の友であります。私達13期の連中とのメールのやり取りは、いつも“生涯の友の皆様方へ”が冒頭に出てくる挨拶文です。なにの因果かわかりませんがKUWVに4年間在籍してただけで何と楽しい人生を送ることが出来るのでしょうか。

“KUWV万歳！！”

今年の7月白山登山の声が後輩よりかかっております。私の当面の心配事は、白山に行きたいが、登ることが出来るかです。現在迷っております。困った！困った！

※スキー合宿で披露された、昔のBHの写真



(1964年山小屋建設作業 野村・吉田・富永)



(1966年秋 追出しコンパ)